

## 第 11 回核不拡散条約（NPT）再検討会議

### 一般討論（NGO セッション）での意見表明

世界宗教者平和会議（Religions for Peace/WCRP） 神谷 昌道

2026 年 5 月 1 日 国連総会議場

議長、閣下、外交官の皆さま

世界宗教者平和会議（Religions for Peace/WCRP）を代表して、今回の核不拡散条約再検討会議の場で、意見表明の機会を頂けたことに感謝申し上げます。Religions for Peace/WCRP は、平和、正義、そして地球上のすべての人類と、相互につながるいのちの繁栄に対する共通の責務を担う、世界の主要な宗教伝統の代表らによる地球規模の諸宗教運動体です。

過去 80 年にわたる私たちの最善の努力にもかかわらず、私たちは、今もなお基本的権利が危機にさらされている世界に住んでいます。核兵器は、暗黙にあって脅威であり、そして人類の生存に対して、今もなお危険な存在であります。ヒロシマとナガサキで目撃された苦しみは、核兵器の壊滅的な結末に対する、生々しく永続的な警鐘となっています。現代においてその結末は、事故、誤算、あるいは意図的な使用の際に、かつてよりもより広範で深刻な影響を及ぼすこととなりましょう。

すべての異なる信仰と伝統を通じて、私たちは、力と破壊を原則とする社会は、正義に基づくことがなく、包摂的でもないと断言いたします。核兵器の保有とそれら兵器を持続させる政策は、実際のところ、人間の尊厳にかかわる道徳的基礎に直接的に矛盾しています。

同様に私たちは、核兵器の全廃への道程は複雑であり、かつ、持続的な施策が要求されることを認識しています。しかしその道程において、「信頼」が中心とならねばなりません。その意味において、核危機の軽減は軍縮の代用品ではなく、むしろ当然の権利の範囲としての倫理的かつ政治的な責務であることを強調したいと思います。

国家は、核兵器に依存する基本政策（ドクトリン）を止め、事故を避けるための透明性と意思疎通を強化し、また核危機の軽減となる政策を追求するための手段を講じなければなりません。

議長、閣下、外交官の皆さま

私たちを待ち受ける道は明確です。私たちは、核兵器の拡散を防止するための努力を倍加させねばなりません。いかなる使用のあり方であっても、核兵器がもたらす結末は、現在の世代をはるかに越えるものとなります。

私たちは、多国間主義、地球規模に基づく法治、そして国際人道法を損なう動きに対して深刻な懸念を有しております。人工知能（AI）の登場と、それが造り出す地球規模の対立における危険性に伴い、多国間主義プロセスに対する一層の回復力を生み出す枠組みを強化することが、決定的に重要であります。

私たちは、現在の傾向を逆転させ、平和と正義、そして共有される安全保障（Shared Security）に根ざした未来を築くための能力と責任を、国際社会が持っていることを信じています。軍備競争が人類を終わらせる前に、人類は軍備競争を終わらせねばなりません。世界の諸宗教コミュニティは、現在、そして将来においても、核兵器の脅威を取り除くための努力に対する支援を継続してまいります。

ご清聴有難うございました。

（注）なお、最終段落で下線が付された部分は、1978年にニューヨークの国連本部で開催された「第1回国連軍縮特別総会」の「NGO セッション」において、当時、世界宗教者平和会議（WCRP）国際委員会の名誉議長であられた庭野日敬師による演説からの一節が引用されています。